

EVENT GUIDE

5 / 22 [日]	学校説明会
7 / 23 [土]	第1回オープンスクール
9 / 11 [日]	学校説明会（学園祭）

※ 内容・時間等詳細については本校ホームページをご確認ください。
※ 予定変更の場合は本校ホームページに告知します。
※ すべて予約制となります。
※ 個別相談を実施しております。本校ホームページをご確認ください。

10 / 30 [日]	第2回オープンスクール
11 / 26 [土]	第1回入試体験会・説明会
12 / 11 [日]	第2回入試体験会・説明会

ACCESS

電車

●東武東上線・東京メトロ有楽町線・副都心線「志木駅」東口より
徒歩：15分／路線バス：5分
※上記所要時間に乗り換え時間は含まれていません

バス

浦和駅 30
中浦和駅 25
富士道入口バス停
志木駅 5

徒歩

●国際興業バス「浦和駅」西口5番のりばより「志木駅東口」行き乗車
路線バス：約30分「富士道入口」下車
●国際興業バス「中浦和駅」より路線バス約25分「富士道入口」下車

HOSODAGAKUEN
JUNIOR & SENIOR
HIGH SCHOOL

Making dots
and
Connecting the dots

GUIDE BOOK
2 2 3

学校法人 細田学園
細田学園中学校・高等学校

〒353-0004 埼玉県志木市本町2-7-1
TEL: 048-471-3255 FAX: 048-472-6905

<https://www.hosodagakuen.jp/juniorhighschool/>

細田学園
100th
Anniversary
1921 - 2021
Next one is the best one.



学校法人 細田学園
細田学園中学校・高等学校

細田学園
100th
Anniversary
1921 - 2021
Next one is the best one.

Next one is the best one.

細田学園は2021年に創立100周年を迎えました。

創立時から先駆的な使命を持ち、その後も常に次の時代を見据えた教育を実践してきた100年。

そしてこの先も“**Next one is the best one.**”の精神で、さらに良い教育を創造し続けていきます。

Making dots and Connecting the dots

最高の原体験を。そして未来へ。

dots 教育

新たな時代を力強く生き抜くために、細田学園は中高6年間という人生で最も多感な時期にたくさんのdots【原体験】を得るべきと考えています。

本学園ではdots【原体験】を、その人の考え方、生き方を形づくる経験としています。この時期に、いかに素晴らしいdots【原体験】を手に入れるかによって、その後の人生は大きく左右されると考えています。何が好きで、何が苦手か、どのようなものに興味、関心があり、どのようなことに人生を通して関わっていきたいのか。これから出会うすべての「人」「もの」「こと」が生徒のdots【原体験】となり、生徒自身の個性、価値観を育むこととなります。この6年間で自らを創り、自らへの理解を十分深めることで、目まぐるしく変化する時代の中を、自分らしく、たくましく生きていくことができるようになります。私たちは考えています。

dots 教育を通して培う “3つの力”

01. 未来創造力

P06 — P10



DITO METHOD

次世代型教育 DITOメソッド

PROGRAM FOR UNIVERSITY

大学入試への対応と最難関大学への合格プログラム

ICT IN EDUCATION

ICT教育

LEADERSHIP

リーダー教育

SUBJECT WEEK

教科横断型授業

01 未来創造力

未来を創り出せる人になるために、
最先端の次世代型教育を実践し、
その土台となる確かな学力を
養成します。

03 人間力

人間にとって最も大切な力を育むために、
愛と奉仕の精神のもと、他者を愛し、
愛される人へと成熟することを
目指します。

03. 人間力

P15 — P18



PHILOSOPHY/LPPICS

建学の精神 愛と奉仕

PRIMARY CLUB

部活動

SECONDARY CLUB

選択クラブ（集中教養講座）

EVENT/CAMP/FIELDWORK

行事／合宿・宿泊行事／フィールドワーク

CAREER DESIGN

キャリア教育

02 国際力・英語力

国際社会で活躍できる力を養うために、
海外でも十分に通用する英語力を
身に付け、多様な国際体験を
積んでいます。

02. 国際力／英語力

P11 — P14



ENGLISH BY DITO METHOD

DITOメソッドを活用した英語教育

POEC

オンライン英会話

STUDY ABROAD

長期留学制度

ENGLISH CAMP

イングリッシュキャンプ

SUPPORT

海外大学進学サポート

未来を生きる君たちへ 2040年の未来予測

皆さんが活躍する未来はどのようなになっているでしょうか。

AIやテクノロジーの進化、情報量の爆発的な増加、環境問題、人口問題、医療の発達による倫理観の再検証、

変化スピードの加速度的な上昇、それに伴う新たな職業の発生と消滅など、

今までになかった問題、課題が次々と現れ、それらと対峙し、

解決、対応しながら生きていくことになるでしょう。



AIの進化、協働へ

AIは友達！？パートナーとしてのAIと協働する世界へ



テクノロジーの進化

超電導リニア、自動運転車、自動翻訳機、生活はさらに便利に



情報量の爆発的な増加と認知の限界

毎秒、約1エクサバイト!?の情報が生まれる未来



医療の発達、倫理観の再構築

寿命が延ばせるようになったとき、人間は寿命を延ばすのか



生き方・あり方の劇的な変化

今ある職業はもうないかもしれない、働く時間も短くなる？



変化スピードの上昇“アツチレランド”

変化のスピードは“だんだん速く”なっていく

未来創造力

“The best way to predict the future is to invent it.”

未来を予測する最善の方法は、自らそれを創りだすことである —— アラン・ケイ

DITO METHOD

次世代型教育 DITOメソッド

未来を創造するために、細田学園独自の学びの手法「DITOメソッド」を採用しています。「DITO」とは、学びを深めていくときの「Define（定義する）→Input（入力する）→Think over（熟考する）→Output（出力する）」という一連の行為を繰り返して行うことです。この一連のサイクルにより、多面的に、深くdots【原体験】を獲得できると考えています。細田学園の全ての学習活動は「DITO」を意識してデザインされており、これを日常的に何度も繰り返すことによって、生徒は自然と「捉える力」「考える力」「動く力・動かす力」「乗り越える力」を身に付けることができます。



DITOで行われる 2040年に向けた次世代型教育

国 語 科

自己を見つめ、他者を知り、共に未来を創る ～読書と表現活動を通して、豊かな感受性と新たな視座を獲得する～

「やまと歌は、人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける。世の中にある人、ことわざ繁きものなれば、心に思ふことを、見るもの聞くものにつけて言ひ出せるなり。」これは、平安時代の和歌の大家・紀貫之の言葉です。人は心が満ちたとき、その思いは言葉となって表現されるものだということ。そして、人には皆、心を動かされる体験が数多くあるので、その時に生じた思いを見聞きたものに託して表現するのだと記しています。本校では、国語を学ぶ意義はこの言葉にあると考

えています。ある物事に触れたときに、心が動かされ、自分の内に芽生えた思いを表現し、他者に伝えていく。その他者は、自分には無かったものの見方、考え方を知り、新たな視座を獲得する。「触れて (Input)、感じて (Feel)、生じた思いから自らの視座を決めて (Define)、知識を蓄えて (Input)、思考を廻らせて (Think over)、他者に向けて表現し (Output)、また新たな視座を獲得する (Define)」。この一連の学びの流れが、国語の授業の本質だと私たちは考えています。



清水 祐太 教諭



「自らの視座を明確にする」
「問いを正しく捉える」
「何を表現したいのかを方向付ける」

国語における思考の出発点となります。これによって、この後の学びがどの方向に深まっていくかが決まっていきます。



「読書によって感動する体験を重ねる」
「過去・現在の文化や価値観、パラダイムを知る」
「効果的な伝達方法を学ぶ」

あらゆる活動は知識の習得を前提としています。考える素材を得ることは、学びの初歩であり、肝要な部分といえます。



「作者のねらいを自分なりに考察する」
「物事を論理的に考え、他者の主張を理解する」
「立場や考えの異なる人を理解しようとする」

知識を獲得したら、それを材料に思考を重ねていきます。より効果的な表現や筋の通った論の展開などを追求していきます。



「自分の作品を生み出す」
「他者に自分の考えを伝える」

コミュニケーションの本質は「表現すること」と「他者の考えや思いを受けとること」です。自分の考えを表現するだけでなく、他者の思いを受容して、新しいものの見方を知ります。

数 学 科

数学を通して本質を追求する力を高める ～高度な思考と緻密な論理～

数学は時代を超え世界のどこでも通用する普遍的な学問です。それゆえ、自然科学はもちろんですが、経済学や情報科学など多くの分野とのつながりがあります。数学を学習する上で大切なことは、単に公式に数字を当てはめて答えを求めることなく、試行錯誤を重ね、物事の背後にある「本質」を論理的に追求することです。本校の数学の授業では、課題に徹底的に向き合い、何が問題なのかを捉え、分析し、目標を定め、自分な

りに解決法を導き出すことを重視しています。そうした経験を積むことで、物事を論理的に考える力や本質を追求する力が身につく、また難しい問題にもチャレンジし続ける「思考体力」や考えることに喜びを感じ、考えることが好きになる「思考意欲」が向上していきます。こうした力を身に付けることで、共通テストなど大学入試に対応できる力はもちろん、社会に出たときに求められる問題解決能力を習得できると考えています。



小泉 徹 教諭



「問題を捉える」
「問題解決のための見通しを立てる」

自分なりに課題を捉え、「規則性を見つける」「帰納的に考える」など、解決への糸口を探っていきます。



「数量や図形などに関する基礎的な知識」
「数学的な概念の理解」

数学は「積み上げ型」の教科です。より高度な内容を学ぶために、早期に揺るぎない基礎学力を身に付けることが大切です。



「論理的な考察」「多面的な見方」
「よりよい方法の探求」

1つの方法でうまく解けるとは限りません。粘り強く試行錯誤を繰り返してさまざまな方法を検討していき、物事を多面的に見る力を養います。



「数学的に表現する力」

物事の特徴や性質を数や式、グラフや図といった数学的な手法を用いて的確かつ明瞭に表現する力を養います。

理 科 科

協働学習で「理解」から「未来」をつくる理科 ～科学的思考法による探究と創造～

理科では、自然現象の中に在る疑問や課題を明らかにし、仮説を立てて論理的に検証する一連の科学的思考法を学びます。授業では「なぜだろう?」「おもしろい!」と好奇心を抱けるような題材を取り上げ、確かな判断材料を得て(知識の選別・蓄積)、自分なりの考えを持ち(仮説)、その正しさを確認し(検証)、誰もが納得できる説明の組み立て方(論理)を、くり返し訓練します。これらは客観的な根拠を提示するために

広く認められた手法であり、日常生活でも必ず役立つスキルです。普段から「根拠」をもとに「こたえ」を出し、自身の将来においても確固たる意志をもって選択できる人になって欲しい。この思いから、すべての実験・観察・体験のなかに科学的思考を育む要素を散りばめています。中高6年間を通して自らの「根拠」を築いたとき、皆さんは自らの考えで「未来」を創ることができる人になっているはずです。



山中 聖子 教諭



「関心を持ち、疑問を抱く」
「何を課題と捉えるか決定する」

好奇心に基づく選択をしながら、自ら選んだものに根拠を付ける訓練を重ねます。自分が何を課題と捉えるか、根拠がどのdots【原体験】に依るものか、年月を経ていくうち明らかにしていきます。



「幅広いフィールドの知識の蓄積」

適切な判断のために、知識は非常に重要です。また、何か新しい考えを生み出すとき、全く関係ないと思っていた知識がつながることがあります。教科書だけではなく、実験・観察・体験などを通して広範な知識を獲得します。



「科学的思考法の獲得」

蓄積した知識から、課題の本質が何かを見極めて仮説を立てます。仮説の裏付けを論理的に検証するプロセスを繰り返し、ときには批判的な態度で取り組む科学的思考法を獲得します。



「論理的な表現」
「課題の解決と新たな提案」

IとTを繰り返し、設定した課題を解決してもそれで終わりではありません。周囲を説得する表現手法を学びながら、ふたたび湧き上がる疑問を解決し、新たな提案につなげます。

DITOを適用した授業例

「地球環境を守る提案をしよう」

中学3年生の理科「自然と人間」の授業テーマです。 次世代型教育 DITOメソッドで行われる授業の流れをたどってみよう！

DITOメソッドを適用した授業では、自分の興味・関心や重要視する事柄を明らかにし、知識や情報の収集に取り掛かります。自らの「D」に基づいた活動であるため、学びが主体的で効果的であることが特徴です。また教科教育にとどまらず、全ての活動がDITOメソッドを基礎としているため、学校生活を送るうちに生徒の興味・関心が自然と明らかになり、将来の活躍するフィールドを選択する際に多面的な根拠となります。



自分なりの「課題」を設定しよう



地球環境なら、毎日家で使っている「電気」に関係することを調べよう。
でも、どうして「電気」が気になったんだろう…。

課題の概要を調査しながら、自分が貢献する分野を決定し、同時に自分がその分野を選択した根拠を考えます。選択の理由は低学年時には「好奇心や興味」で構いませんが、「D」の回数を経て選んだ根拠を積み重ねるうちに、興味の共通点がわかり、自分の「重要視する事柄」が明らかになっていきます。



必要な知識を集めよう



まず、発電や送電、エネルギーについて調べてみよう。
自分で調べたり、実際に働いている人にも聞いてみよう。

グループで既習の知識を整理し、不足している情報を集めます。文献調査に留まらず、時にはフィールドワークやインタビューを実施します。収集する知識・情報は全て自らの「D」に基づく「O」を目的としたものであり、学びの活動が主体的になるのは必然です。



情報を整理してアイデアを生み出そう



発電は地球環境に影響を与えるなら、環境によい発電方法ですべての電気を賄うことはできないのかな？先生やみんなと話し合ってみよう。

収集した知識・情報から、課題を解決する日常の事柄を仮定して、新規アイデアを創出します。影響や効果の定量性を検討するため、ICTツールを用いたシミュレーションや実験も実施します。教員からのフィードバックや、グループでの議論を経て、何度でも「I」や「D」に戻り、思考を深めていきます。



発表して、みんなから意見を聞こう



スマートグリッドで電力消費量がコントロールできれば、クリーンな発電方法ですべてを賄うことができそうだ！具体的な方法を再調査してみよう！

「T」で創出した提案をまとめ、プレゼンテーションをします。結論に至った根拠を論理的に説明し、相手を説得する訓練を重ねると同時に、他の人の発表に対する質問力も磨きます。発表でこの活動は終わりではありません。実際に日常で提案を実施して、改善や継続の仕組みを考えていくと、新たな「D」が生まれます。DITOの学びは永続的です。

次世代の社会を担うリーダーを 育てる

全ては



のために

自己調整能力を身に付ける

dots note

独自の教育プログラムにより、自己調整能力を身に付けます。入学直後の「オリエンテーション合宿」では自分を律する必要性と難しさや目標設定の基礎を仲間達と一緒に学びます。日常生活でも「dots note」を使用することで、目標達成を強力にサポートし、定期考査や行事・部活動などの計画と実行を通じて「学びの習慣化」をはかります。自分が設定した目標を自分で達成できれば、将来大きな志のもとで世の中を変えていくことができるはずです。



一人ひとりに1台のノートPC

生徒たちは、一人ひとりが1台のノートPCとともに学園生活を送ります。授業もHRも行事も探究学習も、あらゆる活動を一人1台のPCが繋いでくれます。生徒主体でアクティブに展開していく授業も、行事の計画も、リーダー教育も、校外でのオンライン学習も、すべてにおいて、ICTがその活動を広げ、深めてくれます。ICTによって「いつでもどこでも学びの場」が実現しています。

課題解決アプ

リーダー

ローチを学ぶ

教育

世界の変化スピードが加速し、ますます先行きが不透明になっていく中で、細田学園は「さまざまなフィールドで、世の中の発展をリードする人間を育成する」ことを教育目標として掲げています。その実現のために、細田学園では独自のリーダー教育を実施しています。リーダー教育では、リーダーとしての人間性を高めていながら、グループを率いて行くためのスキルや方法論を身につけることを目指しています。自分の頭で考え、意見を持ち、表現し、議論し、分かち合い、解決策を見出し、発表し、フィードバックをもらう。この一連の経験によって、生徒たちは社会を動かす力を培い、やがて「世の中の発展をリードする人間」に育っていくと信じています。



日本や世界で起こり得る社会問題を題材に、上記のような段階を踏みながら、グループで協力して解決策の策定まで議論を重ねます。その後、各業界で活躍するプロからのフィードバックを通して、本物のリーダーの考え方と動き方に触れることで、さらに思考を深めます。

01 考え方・動き方を知る 物事をどう考え、どう行動するのだろう

物事を分析する方法、着眼点を整理する方法、新しいアイデアの発想法などを、具体的な題材を基に模索していきます。

02 現状把握 提示された課題の裏には何があるのだろう

生徒たちに具体的な社会課題が提示されます。(例えば、東京都知事から「待機児童問題を解決せよ」との特命を受けたというケースがありました。)

03 課題抽出 私たちはその課題にどう対処するのか

議論を繰り返し、直面している本当の課題は何なのかを探っていきます。PCを利用しながら、客観的な裏付けを踏まえ、論理的に課題を抽出していきます。

04 解決策策定 各班それぞれの解決策をプレゼンテーション

各班それぞれの視点から導き出された解決策をしっかりと伝えるために、データの出し方にも気を配りながら、最善のプレゼンテーションを模索します。

05 フィードバック リーダー教育のフィードバックはプロから

生徒たちが将来リーダーとして社会をけん引することを見据え、各業界の第一線で活躍するゲストスピーカーからフィードバックを受けます。

複合的視点を培う

教科横断型授業

本校では独自の教科横断型の授業週間「Subject Week」を設定しています。これは学期に一度、設定したSubject(テーマ)に沿って全教科の授業が一斉に展開される企画です。この学びによって、物事に関する多面的な知識や視野を身に付け、物事を立体的に正しく捉える力を養います。教科の境界を越えた統一したテーマ学習において、ICTを活用することにより、多くの情報をまとめ、整理し、議論することが可能になります。それによって自分の興味関心がどこにあるのかをより明確に知る機会となります。



アイデアを実現するスキルと論理的思考力を鍛える「ICTツール」と「プログラミング教育」



プログラミング教育

プログラミング教育を通して社会で必要とされるICTスキル、論理的思考力を身に付け、新しいアイデアを実現するための力を育てます。





国際力・英語力

“The limits of my language mean the limits of my world.”

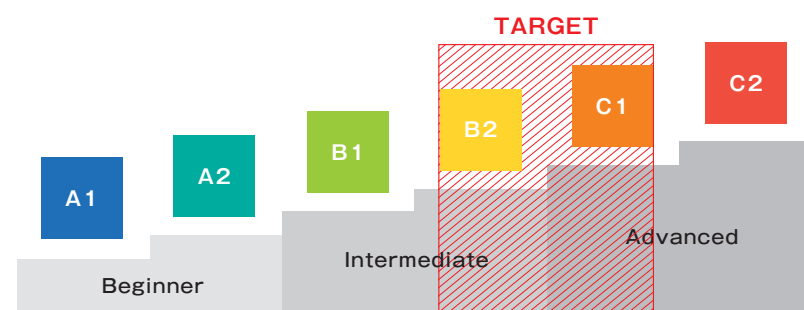
自らの言語の限界は、自らの世界の限界を意味する —— ルートヴィヒ・ウィットゲンシュタイン

細田学園の考える 国際力・英語力 海外大学進学も見据えて

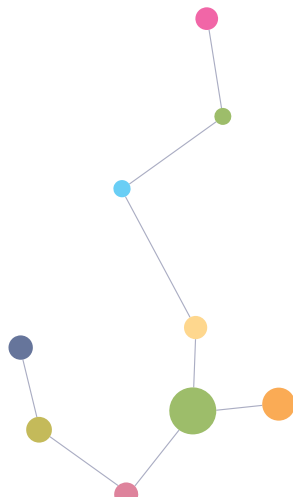
皆さんは将来、多様な文化、様々な考えが行き交う中、言語、文化背景、価値観の異なる人々と意思疎通を図りながら、新たな世界を創造することになるでしょう。細田学園では、英語をツールとして世界レベルで通用する国際力を身に付け、いかなる状況下でも自分の足で歩いていく術を学びます。

TARGET

6年間の学習を通して、国内外問わず活躍できる確かな英語力を養います。



全員がCEFR B2の英語力を目指し、学習に取り組みます。CEFRとは言語や国籍を問わず外国語学習者の到達レベルを知ることができる共通の参照基準です。B2に達すれば海外難関大学へ、C1に達すればアイビーリーグ等の最難関大学への進学も可能なレベルとなります。この目標を達成し、自信をもって国際社会で活躍していけるよう、授業内容、学習環境、留学プログラムなどを整えています。



英語科

国際社会で活躍できる、もっとなりたい自分に

細田学園の英語学習では、「英語を学び」「英語で学ぶ」ことを目指しています。様々なバックグラウンドを持った講師陣と語り合い、多種多様なジャンルの学習素材や言語活動を通して世界の情報を浴び、自分が見える世界を押し広げます。また発表・自己表現の機会を通してコミュニケーションスキルを磨きます。そこに与えられるフィードバックによって客観的に自分を見つめ、深めていきます。細田学園の

英語学習は、単に英語という道具を獲得する作業ではなく、世界に対する新しい見方に出会い、より広い世界に暮らしている自分を見つめ直す過程なのです。人生の中で最も多感な中高6年間の英語学習を経て、十分な国際感覚を身に付け、グローバルな社会の中で、自分がどのように生きていきたいのかを見つけていることでしょう。



萩原 貴之 教諭



「国際社会の一員として選択する」
「主張したいことを決める」

「I」と「O」を繰り返し行う過程の中で課題をより具体化します。興味の幅を世界に広げ質を深めていくことで、国際的な視野を意識しながら選択・決定ができるようになります。



「幅広い分野の文章を読む」
「バックグラウンドの違う人々とやりとりする」

4技能の統合的な活動を通して多種多様な内容を扱い、英語を母語とする人々特有の思考法や物事の見方を知ることにより国際力を高めます。



「主張を伝えるための適切な表現を考える」
「国際的な視点からの評価を受け、再考する」

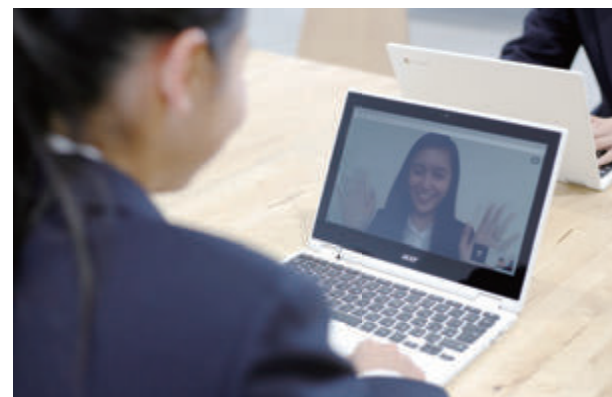
言いたいことを伝えるための効果的な方法を考えます。国際的な視点からフィードバックを受けることで克服すべき課題を理解し、今後の学びの道筋を考えます。



「英語で要約する、意見を述べる」
「英語特有の論理展開を用いて話す、書く」

興味のあるものを調べてまとめ、発表し議論します。発表後、質疑応答や意見交換などを繰り返し、表現力を向上させることにより、国際社会で必要となる批評する力を養います。

オンライン英会話 POEC



海外とマンツーマンでつながる

海外の講師とオンラインで繋ぐPOECというマンツーマンの英会話レッスンを課外時間等に行います。本校独自のカリキュラムのもと、授業と連動させることにより、学校で学んだ内容をアウトプットする機会を十分に確保します。一人ひとりが英語を使う環境を整えることで、自然な英語を自然な形で学び、発話力を培います。表現力の向上はもちろんのこと、外国語を使用し意思疎通を図ることの喜びを日々体感し、異なる文化の中で生きる人と意見交換をするための素地を養います。

STUDENT'S VOICE

高校1年生 Iさん



オンライン英会話ができることは想像以上の効果があると実感しています。授業で学んだことを実際に使うことで、伝わる喜びを感じ、普段の授業に対する意欲も湧いてきます。入学後、英語が好きな教科となりましたが、学習意欲の源の一つとなっているのはこのオンライン英会話です。

海外でのdotsが キミの生き方を大きく変える

長期留学制度

中3～高2

希望者制



1年間の海外留学を希望者対象で行います。ホームステイや学生寮などの日常生活の中で異文化を体験します。多様な国籍の学生達とともに授業を受けることや、現地の高校生と生活することで自然と英語を身に付け、様々な国の人達の考え方や行動の違いを体感して理解します。早期に留学することにより、帰国後、希望進路が日本の大学であっても海外の大学であっても準備期間を十分確保した上で受験に臨めるようにプログラムを組んでいます。留学に何を求めるのか、何が学びたいのかを考え、一人ひとりに合った学校で学んでほしいと考えています。



海外トップレベル大学での語学研修

高1～高2

希望者制



世界のトップレベルの大学へ訪問します。そこで行われる講義の受講や最先端の研究所の視察などを行うことにより、世界では何を課題とし何が行われているのかを理解します。現地大学生、研究者、様々な分野の専門家から現代社会の様々な課題について学び、ディスカッションやワークショップなどの活動を通して、英語力だけでなく新たな視点で物事を考える力を養います。研修で学んだことをどう生かしていけるのかを考え、発表する機会を通して、将来したいこと、できることを、幅広い視点から捉えて、自分の未来を見つめ直します。

イングリッシュキャンプ

中2～高2

希望者制

朝から晩まで英語漬けのEnglish Campでは、短期集中で英語力・表現力を向上させることに加え、人や文化とのふれあいを通して、互いを理解する感覚を養います。

POINT 1

1日を通して、個人に合わせたきめ細やかなレッスンを行い、確実な語学力向上を目指します。講師1人に対して原則生徒2人制のマンツーマンに近いレッスンです。

POINT 2

スピーチ、プレゼンテーション等の発表を通して、豊かな表現力を身に付けます。自らの意見を他者に伝え、試行錯誤して目標に近づく過程では、大きな成長を感じられます。

POINT 3

本校教員も同行し、初めて留学を経験する人にとって挑戦しやすい環境を整えます。世界トップレベルの英語力を誇るフィリピンで、国際力も身に付けます。



国際体験学習

高2

広い世界を見て、感じて、学ぶ

早い時期から海外に目を向け、様々な視点から日本や世界を見ることで国際感覚を身に付けることを目的としています。日本とは異なる文化・歴史を持つ国を訪れ、現地校との交流や、現地の大学訪問を通して、海外の人々や文化に触れることができます。環境の違いを体験する（目で見て肌で感じる）ことは、将来国際社会で活躍するための大きなdots【原体験】となるでしょう。



STUDENT'S VOICE

高校2年生 Yさん



国際体験学習を通して、一番驚いたのはシンガポールやマレーシアがとても国際的だったことです。様々な民族と一緒に暮らしており、まるで一気に5つの異なる国を訪れているようでした。現地の高校を訪問したときには、3カ国語も話せる生徒がおり、感心しました。私も今後英語の勉強に真剣に取り組み、将来的には彼らのように3カ国語以上話せるようになりたいです。



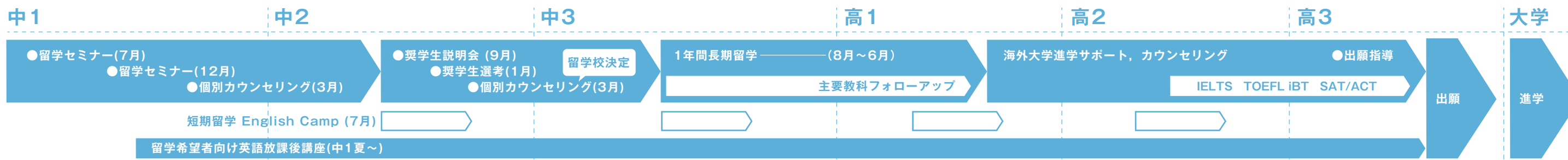
海外大学進学サポート（欧米向け）

高2～高3

希望者制

海外への大学を希望する場合、海外留学に精通した企業と協力しながら志望大学の選定、エッセイなど出願書類の作成、IELTSなどの英語試験の対策といった海外大学進学に必要な全般をサポートしていきます。海外大学進学が実現できる環境を整えています。

長期留学から海外大学進学への流れ



人間力

“Education has for its object the formation of character.”

教育の目的は人格の形成にある ———— ハーバード・スペンサー

建学の精神

「愛と奉仕」

本校の建学の精神は「愛と奉仕」です。「愛と奉仕」には、人間性、意志、勇気という創立者の思いが込められています。「人間性」は人間の持つ本質的なよさ、「勇気」は正しいことを行う強い心、「意志」は自ら決めたことをやり続ける気持ち。この3つを体現できることが、社会で善い人間として信頼されるようになると考えています。

LPPICS 学園生活のあり方 ～日常生活で身に付けるべき5つの重点～

中高6年間という人生で最も多感な時期に、学校行事や部活動といった特別な活動だけではなく、学園生活の日常の中で身に付けてほしい5つの重点がLPPICSです。LPPICSとは青年期に確立しておくべき、全ての基礎だと考えています。建学の精神「愛と奉仕」、心身ともに健康な生活習慣、ポジティブに考え、チャレンジする姿勢、そして感謝と反省。人として当たり前の習慣を学園の日常で身に付けていきます。

LPPICS

Love and service

【愛と奉仕】

建学の精神を学ぶこと

「建学の精神を学ぶ」時間で、「愛と奉仕」に込められた“人間性”“意志”“勇気”を学び、それを日常の中で実践します。



Practice

【生活習慣】

習慣が然らしむること

習慣化した「挨拶、身だしなみ、時間の厳守、規則の遵守」は人としての基礎です。また、読書や自習など、学習面も習慣化し、生涯学び続ける姿勢を身に付けます。



Positivity / Independence

【ポジティブ／主体性】

自発的かつ前向きに行動すること

行動をする時、どのような気持ち、姿勢で挑むかによって、結果は大きく変わっていきます。普段から、何事もポジティブに考え、自分の個性を存分に生かし、自発的に行動をすることを学んでいきます。



Challenge

【チャレンジ】

挑戦する人であること

チャレンジ精神を尊重します。学園生活の中で、たくさんの dots【原体験】に挑戦をし、たくさんの成功や失敗を体験することで、一つひとつの dots【原体験】が個性となり、夢に繋がります。



Self-reflection

【感謝・反省】

感謝し、省みること

すべての dots【原体験】で経験する成功や失敗の結果に対して、素直に受け止め、自省することができるようになっていきます。すべての dots【原体験】に感謝することができれば、必ず次にいかせるでしょう。



多様な課外活動を通して 様々なdots【原体験】を得る6年間

部活動



サッカー部



吹奏楽部

部活動ではクラスとは異なる学年を越えた仲間たちとの切磋琢磨することによって、一人では味わうことのできない探求心、努力、他者への思いやり、チームワーク、達成感など将来かけがえのないdots【原体験】を得ることができると考えています。そのため、授業時間を工夫し、部活動の時間を十分に取ることによって、思いきり部活動に打ち込んでほしいと考えています。

運動部

サッカー／剣道／チアリーディング／卓球／硬式テニス／陸上／バスケットボール

文化部

吹奏楽／合唱／調理／囲碁・将棋／陶芸／書道／茶道・華道／サイエンス／英語／写真／数理／美術／演劇／奉仕／バトン／パソコン



チアリーディング部



サイエンス部

行事



学校行事は大切なdots【原体験】を獲得できるチャンスです。授業では得られないdots【原体験】をたくさん得られるように、生徒主体で運営をしていきます。学校行事は本番に至るまでの準備に本気で取り組むからこそ、その時間はかけがえのない時間になります。仲間と共に一つのものを作り上げる達成感を味わったり、うまく事が運ばない苦しい経験をしたりするなど、すべてが未来の自分をつくる大切なdots【原体験】になるでしょう。

合宿・宿泊行事



各学年に毎年、オリエンテーション合宿(1年生)、林間学校(2年生)、修学旅行(3年生)、イングリッシュキャンプ(希望者)などの宿泊行事があります。規律ある生活の中で寝食を共にし、その心地よさを学びながらそれぞれの目的を達成してほしいと考えています。“同じ釜の飯を食べた仲間”との一体感を感じ、いろいろなことを語り合う。そして将来、本学園の生徒同士がこの経験を基に協力し、世界、日本をリードしてほしいと願っています。

フィールドワーク



普段とは異なる世界とふれあい、知的好奇心を刺激します。特に長期休業中はその時にしかできないことを経験して、たくさんのdots【原体験】を得るチャンスだと考えています。この原体験として、各教員の得意とする分野に特化したフィールドワークを実施していきます。いくつものフィールドワークから自分が興味のある分野を選択し、学校では学べない学びを体験できます。

Annual event【年中行事】

4/April ●入学式 ●始業式 ●オリエンテーション合宿(1年) ●修学旅行(3年)	5/May ●中間考査 ●生徒総会	6/June ●体育祭 ●歌舞伎鑑賞教室 ●保護者面談	7/July ●期末考査 ●Subject Week① ●オープンスクール ●林間学校(2年) ●選択クラブⅠ	8/August ●English Camp ●夏季フィールドワーク	9/September ●学園祭
---	--------------------------------	---	---	---	----------------------------

10/October ●中間考査 ●創立記念日	11/November ●芸術鑑賞会	12/December ●期末考査 ●Subject Week② ●クリスマス祝会 ●選択クラブⅡ	1/January ●冬季フィールドワーク	2/February ●白梅忌	3/March ●学年末考査 ●卒業式 ●修了式 ●春季フィールドワーク
--------------------------------------	------------------------------	--	---------------------------------	---------------------------	---



オリエンテーション合宿

次世代の社会を担うリーダーとしてのスタートです。建学の精神「愛と奉仕」やLPPICS、目標設定、学園生活について、グループ活動を通して学びます。最終日の発表会ではクラスが一体となり、達成感を得ることができます。



体育祭

運動が得意な生徒もそうでない生徒も、熱くなれるのが本校の体育祭です。目玉競技「応援合戦」は苦勞もありますが、本番で涙を見せる生徒も。クラス対抗だけでなく、部活動対抗の競技も白熱します。

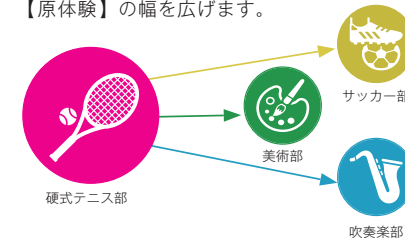


選択クラブ

年2回、入部している部活動以外に短期間の集中教養講座を選び参加します。運動部の生徒は文化系の講座を、文化部の生徒は運動系の講座に挑戦することで、新たな発見や自分の特性の理解につなげ、dots【原体験】の幅を広げます。

【選択例(イメージ)】

普段は硬式テニス部で活躍！でも、実は音楽にも挑戦したかったし、実験も好き、最近では将棋にも興味がある！選択クラブは、そのような1つの部活だけでは得られないdots【原体験】の幅を広げます。



様々なdots【原体験】を獲得



学園祭

生徒主体で運営される最も来場者の多い行事が学園祭です。企画から運営まで生徒たちがつくる学園祭はまさに青春。お客様に喜んでいただき、かつ自分たちも楽しめる最高のイベントを目指します。



Subject Week

年2回の教科横断型の授業週間です。設定したSubject(テーマ)に沿った内容の授業が全教科で一斉に展開されます。この学びによって、物事に関する多面的な知識や視野を身に付け、物事を立体的に正しく捉える力を養います。



6-Year Grand Design

細田学園では、生徒たちが「質」の高い「深さ」のある「幅」の広いdots【原体験】を獲得できるように、6年間でデザインしています。

6年間で出会う「人」「もの」「こと」のすべてがdots【原体験】となり、生徒一人ひとりの未来に繋がります。

最高のdots【原体験】を。そして未来へ。

dots教育を通して培う「未来創造力」「国際力・英語力」「人間力」という3つの力を軸にして、6年間の教育活動を展開していきます。学年や発達段階に応じたdotsを獲得し、それを積み重ねていくことで、自らの「個性」や「価値観」が次第に鮮明になっていき、将来自分が進むべき道が明らかになるはず。そして、卒業後、中高6年間で獲得したdotsが繋がることで、「さまざまなフィールドで世の中の発展をリードする人間」へと成長していきます。

▶「移行期」 中学1年生

小学校から中学校へと大きく環境が変化していきます。それぞれの違いをお互いが理解し、尊重し合える気持ちを育みます。

▶「dots拡張期」 中学2～3年生

授業、H R活動、部活動、選択クラブ、フィールドワークなど、さまざまな未知なる経験を重ね、大きく幅を持ったdotsを獲得することにより、自らの特性や強みを見出します。

▶「dots探求期」 高校1～2年生

dots獲得期で得たdotsを基に、物事を深く探求することに重点を置きます。個人で何かを研究したり、仲間と協力して何かを成し遂げたりするなど、物事を完成まで突き詰めていく素晴らしさとその方法を学んでいきます。

▶「dots結合期」 高校3年生

5年間で蓄積されたdotsによって、自らの特性や強みを理解し、進むべき道を選択していきます。自分の好きな領域であれば、夢の実現のために努力し続けられるはず。



良い生活習慣を習得する

日常生活で身に付く人間性

登下校、授業、朝・帰りのホームルーム、休み時間では、身だしなみを整え、しっかりと挨拶をしましょう。本校ではチャイムの前には着席、チャイム後に黙想を実施し、心を落ち着かせてから、挨拶をします。良いマナーや生活習慣、人に優しくすること、積極的な行動など、これらは日常生活の中で身に付いていきます。自然と振る舞えるように“当たり前”にしています。



学びを広げ自らを見出す

各教科の特性を通して自己発見

例えば「Subject Week」では、1つのテーマに対して複数の教科で授業が展開されます。多角的なアプローチを経験し、自分の思考・論理・表現方法と最もフィットした教科が見つかるはず。また選択クラブもフィールドワークも自らのdotsの幅を広げる良い機会になっています。



中心となって組織をまとめる

リーダーとして目標を持ち後輩を導く

学園全体の行事(学園祭・体育祭)では、中心的存在となって活動します。今まで培った人間性や多角的な視点と、自分の特性を最大限活用して、大きな行事をしっかりと成し遂げ、集団の中で担う役割を全うできれば、その経験により自分自身に自信が持てるはず。それが自己の確立に繋がっていきます。



自信と誇りをもって未来に向かう

6年間で培った力を未来へと繋ぐ

志望大学合格に向けて全力を尽くしていきます。6年間の集大成としてより学習に集中していくことになります。今まで身に付けてきた幅広く深い知識と、研ぎ澄まされた思考力・判断力・表現力は大学入試に対応しています。また、信頼し合った仲間との切磋琢磨が、よい相乗効果を生み、お互いの希望進路の実現に繋がります。



Making dots
and
Connecting the dots

キャンパスライフ

CAMPUS FACILITIES

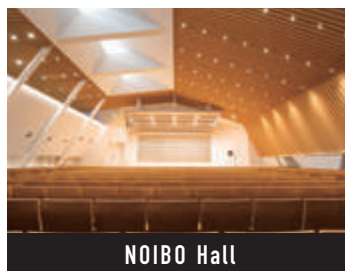
次世代型教育を実現する 最新の教育環境を整えています

一人ひとりが自分の将来にビジョンを持ち、それに向けて充実した学園生活が送れるよう、常に新しいアイデアと実践の日々が続いています。創立100周年である2021年に新校舎が完成し、学習環境のさらなる整備も進んでいます。進化し続ける細田学園は、「なりたい自分になっていく場所」であることを目指しています。



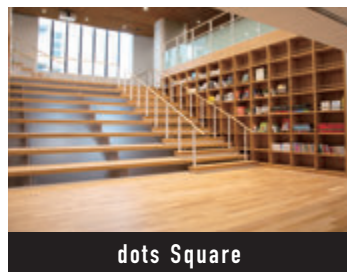
School Building

2015年に学園の正面にあたる1号棟が完成。その後、2017年に既存旧校舎のリノベーションが完了。そして100周年となる2021年には新校舎が完成。全館にwi-fiを完備し、先進性と快適性を備えた校舎となっています。



NOIBO Hall

2021年に完成した固定式の座席で約800人を収容できるホールです。学習成果の発表、入学式・卒業式などの式典、本格的な芸術鑑賞など学園生活を豊かにする多くの体験ができる大規模空間です。



dots Square

新校舎の1階と2階を結ぶこの開放的なスペースは「学び」「発表」「交流」の場です。校舎内は本棚が多く設置されアカデミックな雰囲気の中、自然とアクティブな議論が起こるようにデザインされています。



RISE Hall

明るく広々とした多目的ホールは、授業・部活動・生徒会活動などで使用されています。多様な利用形態を想定して、プロジェクター3台を備えています。



Open Communication Space

エントランス・ホールには、自由に利用できるコミュニケーション・スペースがあります。放課後、さまざまな形で活用されています。



Learning Commons

能動的な学びを支える協働学習スペースです。ガラス張りの明るい環境で、じっくり本を読んだり、仲間と知識を増やしたりすることができます。図書館の機能も果たしています。



Main Sports Field

メイン・グラウンドはテニスコート4面と全面人工芝のサッカー場があります。授業や学校行事、部活動で使用されています。



Sub-Sports Field

フットサルコート2面分の人工芝サブ・グラウンドでは、サッカー部はもちろん、その他の運動部の活動にも使用され、より一層充実した活動ができています。



Baseball Field

細田学園3つ目のグラウンド。野球場を含む広大なグラウンドでは野球部などが日々のトレーニングに励んでいます。

MESSAGE 代表メッセージ



未来を創る
担い手たちへ

学校法人 細田学園 理事長
持田 直人

細田学園は、大正デモクラシーの思潮のまったただ中である1921年（大正10年）に創立されました。女性の社会的地位がまだ低かった時代に、「愛と奉仕」の建学の精神のもと、若い女性たちに“豊かな教養”と“経済能力”を得させようという先駆的な使命をもって設立されました。100周年を迎えた現在でも、創立時の精神を踏まえて、未来を創る生徒を育成したいという思いから、細田学園中学校では、中学、高校の6年間をかけて次世代型教育に取り組んでいます。奇しくも大正時代と同様、時代は大きな転換点を迎えています。明るい未来は与えられるものではなく、自ら創るものです。変革の時代だからこそ、力強く未来を創造していく力を本学園の6年間で身に付けてほしいと願っています。我々も100年の伝統に溺れることなく、常に未来に必要とされる教育を創造していかなければなりません。より一層良いものに向かう、“Next one is the best one.”の精神をもって、学園創りをしてまいります。



6年間で
本当に好きなことを
みつけよう！

細田学園中学校・高等学校 校長
荒井 秀一

皆さんが活躍する20年、30年後の世界はとても明るく楽しいはず。いま皆さんの抱えている夢や希望が現実になっていくと思います。一方、ますます変化のスピードは速まり、世界の向かう方向は不確実で不透明であることも確かです。そこで、細田学園ではdots【原体験】教育を行っています。dots教育を通して、皆さんの好き・嫌い、得意・苦手、興味あること・ないことを自分自身で認識し、今後どのような人生を送りたいか深く考え、自分なりの価値判断ができる力を育みます。この力が身に付けば、自分の「生きる意味」を明確にできます。これを軸として夢や希望を考えることで、変化の激しいどのような世界でも振り回されることなく、自分が本当に追求したい夢や希望にたどり着きます。そして、そこで活躍することで、人生が充実し、苦しいことや不安があっても乗り越えることができます。皆さんがこの6年間でたくさんのdotsを創り、つなぎ合わせることで、ここで身に付けた未来創造力・国際力・人間力を十分に発揮できる未来のリーダーに育っていることが我々の願いです。

SCHOOL UNIFORM 制服紹介

男女ともに上品なブレザースタイル。女子はタータンチェックのスカートで華やかさを演出、男子のスラックスは知的でスマートな印象に。洗練されたデザインは、生徒たちに誇りと愛校心をもたらしてくれるはずです。

